

第5回豊能町地域公共交通会議分科会議事概要

日 時：平成24年9月25日（火）午後1時55分から3時15分まで

場 所：吉川支所 2F 会議室

出席者：委員6名（内代理1名） 事務局3名

（詳細は別紙「豊能町地域公共交通会議分科会名簿」のとおり）

《1》議事進行概要（事務局説明の詳細は各資料参照）

【1】午後1時55分開会

- ・乾委員長より開会のあいさつがあった
- ・委員の自己紹介を行った

【2】社会実験の1次評価について

事務局より下記の説明があった

- （1）東西バスの1次評価結果
- （2）東地区デマンドタクシーの1次評価結果

【3】社会実験の2次評価に用いるデータについて

事務局より下記の説明があった

- （1）東西バス
- （2）東地区デマンドタクシー
- （3）財政投入のバランス・妥当性

【4】その他

次回分科会（10月以降）では町の考え方を示し、内容を検討することとなった

【5】午後3時15分閉会

《2》主な質疑、意見

○東西バスと豊能西線の状況について

- ・ 豊能西線の利用者数（2012年4月調査 1日904人）は、以前の新光風台線・東ときわ台循環線の利用者計（2010年12月調査 1日1,077人）と比較すると（条件が異なるので一概には言えないが）減少している。
その減少分が東西バスに移ったとは言えない。
- ・ 箕面森町線の利用者は増加している。従来は西地区内のバスと能勢電鉄を利用していた人が、現在は徒歩等で箕面森町まで行き、そこから箕面森町線を利用するということが減少の理由として挙げられる。
- ・ 豊能西線の運行開始以前から利用者は減少していて、阪急バスからは便数の調整が必要との話もあった。
- ・ 地区内の人口減少や高齢化も利用者減の要因となっている。
- ・ 豊能西線は、従来の路線と比べて駅までの乗車時間が長くなっている部分もあり、別の手段で最寄駅に行くようになったということも考えられる。

○東西バスの廃止について

- ・ 1次評価の廃止は「移動手段の廃止」か「バス運行の廃止」か。
⇒現町長は東西バスの検証を行った上で、違った手段を検討するという考え方。
- ・ 平均乗車密度は1人未満で、バス運行は難しい。通学利用もないようなので、形態の変更は可能であり、検討が必要。例えば、東西バスの「競合のない区間の利用者」にタクシーの初乗り運賃補助をするといったことも考えられる。

○東地区デマンドについて

- ・ 利用されている地区とされていない地区の差が大きい。
- ・ デマンドは利用者が少なければ財政支出が少ないので問題がないように見えてしまう。しかし、運行を廃止するという考え方や、支出が少ない＝使いにくいという考え方を踏まえて検討が必要。
- ・ 今の仕組みでは利用しにくいからこの数字になっている。

- 川尻は集落内にデマンド路線がある。高山は道がよくなったのに集落内に路線がない。福田もそうだが、停留所まで車で行かなければならない。そのあたりを変えれば利用者は増えると思う。